

## 太田まちづくり市民会議 第2回会議 議事概要

日 時	令和5年5月18日(木) 18:30~20:00
場 所	太田市役所 本庁舎10階 政策推進会議室
出 席	(委員) 中村委員、對比地委員、樋口委員、西村委員、萩原委員、 (事務局) 企画政策課：矢羽参事、川田課長補佐、川岸主任、和田主任

### 1. 開会

### 2. 協議事項

#### 2.1. 太田市まちづくり基本条例について

会長 今日テーマは固い部分も多いようだが皆さんの生活に身近なテーマを中心に協議を進められたらと思う。

(第4章 参画と協働の市政運営)

会長 (第4章読み上げ)  
ここに関しての意見等は、特にないようなので5章に進みます。

(第5章 財政)

会長 (第5章読み上げ)  
ここに関しての意見等は、特にないようなので6章に進みます。

(第6章 評価)

会長 (第6章読み上げ)  
ここに関しての意見等は。

委員 評価についての公表とはどこでしているのか。

事務局 広報とホームページが主な手段になる。

会長 積極的に情報を探しに行かない人には届かない可能性もあるということですかね。

委員 6章も5章もの話になってしまうが、適切な時期に適切な方法でどのように抽象的な表現になっているのか気になった。また、6章の中の最もふさわ

しい方法というのかなり抽象的だなと感じた。どういうことを想定して抽象的にしているのだろうと感じた。

会長 この条例が最上位の物として位置付けられているため、ある程度あいまいにする必要もあるのかもしれないが、確かにその考え方もある。

委員 ある程度柔軟に対応できるようにしておかないと条例違反ということになってしまうだろうから抽象的にしておくことも必要なかと思う。あいまいさが良いほうに作用することもあれば悪いほうに作用することもあると思うが、何かあった時に行政側がきちんと説明できるようにしてあればいいのかなと思う。

事務局 直接的な答えではないが適切な時期という表現に関連した一例として、例えば太田市の総合計画については前期4年後期4年の8年計画で作成している。これは市長の任期が4年ごとであるため、そのタイミングに合わせることで太田市の大きな方向性のかじ取りを円滑にする意味合いもある。また、最もふさわしい方法という表現についても、その時代や状況において様々な方法を取りやすいようにそういった表現になっている面もある。

会長 総合計画は市の核となるものなのでそういったスパンで考えているという事情があるのだろう。

委員 最もふさわしい方法のような抽象的な表現をすることで、柔軟に事業を進めることができている要因でもあるかと思う。

#### (第7章 住民投票)

中村会長 (第7章読み上げ)  
ここに関しての意見等は。

委員 住民投票できることを知らなかった。

会長 住民投票は頻繁にやるものでもないですよ。

事務局 太田市の場合少なくともここ30年はやっていない。

委員 他の自治体も含め、例えばどんな時に住民投票をするのか。

事務局 廃棄物の最終処分場のような大きい話の時に実施するケースが多い。

#### (第8章 コミュニティ)

- 会長 (第8章読み上げ)  
ここについての意見等は。
- 委員 この前区費の徴収があったのだが、区によって金額が違うのはなぜなのかと感じた。
- 委員 これは誰が決めているのか。
- 委員 その地区、自治会ごとの伝統みたいなものがあるのではないかと感じている。
- 事務局 行政側で決めているわけではなく各地区の総会等で決めている。
- 委員 コロナの影響等で活動できていない時でも同じ額だったのでなぜなのかなと感じていた。ただ、その疑問を誰に投げかけたらいいかもよくわからないのでそのままになっている。
- 委員 活動している人たちが運営費として活用しているように感じている。地域によって違いはあると思うが、役員をやっている人たちの飲食代に使われている場所もあるように思う。地域のつながりのためにも必要な事なのかもしれないが、きちんと何に使っているかきちんと見えないといけないと思う。地域のつながりは大事だが、実際希薄になってきていると感じる。
- 会長 地域のつながりは希薄になっていますか。
- 委員 少なくともうちの地区に関しては希薄になっていると感じる。うちの地区については外から入ってくる人が少ないので、古い習慣のようなものが強く残っていて世代間のギャップを感じている。
- 会長 地域によっては新たな担い手がないから、同じ人が続いているケースもあるのかと思うが、難しい問題だと思う。
- 委員 今のような古い習慣が蔓延している地区もあるし、新興住宅地のような新しい人たちが多く入ってくる所は良好なつながりができているように思う。また、区費について、うちの地区の場合は余ったものを還元してくれていた。
- 委員 どういった形であれきちんと還元してくれれば納得感は高まると思う。
- 委員 うちの地域は何年か前に過徴収分があったので町会費が安くなったことがあった。その時もきちんと理由が説明されていたが、興味がない人は内容を把握していないようだった。また、うちの地区の役員等は基本的に年

配で比較的時間に余裕のある人たちが順番にやってくれているケースが多いが、先日若い世代の人でも興味がある人は手を挙げてほしいとの連絡が回ってきていて、いい取り組みだなと感じた。うちの地区は何か変更等あった時には比較的きちんと説明されていると思うが、先ほどの話を聞くと地域によって違うのかなと感じた。年配の方だけが頑張っている地区もあると思うので、うまく世代交代ができないといけないのかと思う。運動会やその後の打ち上げを楽しみにしている人もいたようだが、参加しないとその良さは分からないかもしれない。

委員 自治会ではなく学区の話になるのだが、学区外に通学していることが原因で地域の行事になじめないことがあったことを思い出した。場所によって地域性が色濃く出てしまうのかと思う。

会長 そういったネガティブな経験をされてるようだが、それを改善するためには何が必要だと感じますか。

委員 いい伝統は引き継いで、それ以外は日々ブラッシュアップする必要があると思う。時代にそぐわない伝統のままだと若い世代は関わらないほうがいいと思う人たちもいる。若い世代の意見を取り入れる場が必要なのではと感じている。

会長 地域の良さを引き継ぎつつ、若い世代の考えも反映するといったようなバトタッチの具体的ないい方法はないか。

委員 具体的な事が今は思いつかない。

委員 うちの地域のあるお祭りについて、GKAに通っている生徒は地域の通学路の名簿に載っていないという理由で、お祭りの案内を送る対象に含まれておらず案内が届かなかったということがあった。実行委員会の人に聞いた結果、ぜひ参加してという話であり円満に解決したが、そうでないケースもあるのかもしれない。例えば「あの家の子はGKAに通っているから直接声がけしてあげよう」といったような、地域で気の利く人のような人がいれば助けになるのかも。

委員 アカデミーの場合、太田市民の人がアカデミーのことをどう思っているかも大切。アカデミーだからという理由で（学区が違うという理由で）地域から距離を置かれてしまうケースもある。

委員 そもそも名簿にないのはおかしい。

委員 通学路の名簿を使っていることが間違いだと思う。

- 委員 育成会の名簿が地域の学校から届くことが原因だと思う。
- 事務局 特区であるために、現状 GKA に関する取りまとめは教育委員会は担っていない。教育委員会が設置した学校でないからということと、学校自体が私立学校であるため教育委員会の管轄でないという解釈になっている。
- 委員 それが原因で子どもがお祭りに参加できないケースが起きるのはかわいそうだと思う。
- 委員 そのこのすり合わせするにはどうすればいいのか。
- 委員 昔は世帯ごとの子どもの情報の名簿のようなものを作っていたような気もする。今は個人情報に対して敏感だから難しいのかも。地域のコミュニティも個人情報の問題で希薄になっている面もあるのかもしれない。
- 会長 任意で組織しているコミュニティや、地域以外のコミュニティについて感じたことは何かありますか。
- 委員 外国人のコミュニティの問題。多種多様な人が太田市に来ている中で、そういった人たちはなかなか地域のコミュニティには属せていない。
- 委員 地域にあるコミュニティも大切だが、それぞれが属すコミュニティをいくつも持つことで変わるのでは。言い方は悪いが、自治会のコミュニティの仕組みは古いのかとも思う。地域以外で、つながりのある人同士で形成されたコミュニティのほうがつながりが強くなると思う。外国人の人は宗教によるコミュニティのつながりが強いように見える。
- 委員 日本人が外国人に対して優しくないように感じる。外国人の人と関わる場はあちこちにあるので、そういったところに参加して関わることも必要なのではないか。外国人の人たちのフレンドリーさを見習うことが良いコミュニティ形成のヒントになるのでは。
- 委員 地区の役員などに外国人の人を参加できるようにすることが必要なのは。例えば、地区に住んでいる外国人の情報を把握する役を担う人を地区に配置して、まずはその人が外国人とのパイプ役になるなどきっかけを作ることも有効ではないか。
- 委員 年配の人は外国人は怖いみたいな先入観があると思う。
- 委員 日本人から外国人に積極的に関わらないのは問題。相手を知ろうとする努力が必要。スマホなどのツールも活用しながら日本人から踏み込まないと関係性は構築できないのではないか。

会長 ここまでの話を聞いていて、外国人に対して日本人から相手の懐に入って  
いったり、地域の年配者に対しても若者から懐に入っていくという必要も  
あるのかと感じた。

(第9章 行政及び市議会の役割と責務)

会長 (第9章読み上げ)  
ここに関しての意見等は。「行政の職員は、まちづくりの専門家として」  
という記載のように、行政の職員をまちづくりの専門家と表現しているの  
は面白いなと思った。

事務局 そうであるべきという事だと思う。地域の活動等に対しても積極的に参加  
する必要があるということ。

会長 市長や市議会の役割についても書かれているが何か意見のある方は。

委員 自分の地域として考えると、地域から市議になるような人が出てくるとい  
いなとは思ふ。

委員 昔は各地区に市議会議員がいてその人に困りごとを話せば対応してもら  
えるようなイメージがあったが、今の市議会議員さんは地域に根ざしてい  
ないイメージがある。どちらかという地域のためというより市のために  
働いているのかなというイメージを個人的には持っている。

委員 市議会議員だよりを少し読んでみたことはある。

委員 今の市議会議員の人は地区の困りごとを行政に挙げるというようなこと  
はしていないのか。どういったことを市に対して主張しているのかがよく  
わからない。

事務局 人によって差があるとは思いますが、地元や地域に関することをたくさん質問  
する人もいます。

会長 市長についての記述もあるがいかがでしょう。

委員 批判的な人もいると思うが、やりたいことのビジョン等を明確に示してい  
ていいと思う。しっかりとやってきたことややりたいことを発信している  
のはいいことだと思う。

委員 市長は市民が気軽に話をできる人だと思う。不満があるわけではないが、  
今の市長以上の人が出てこないというのもどうなのかなとも思う。

委員 今の市長の後継者を育ててほしいと強く思う。そうでないと市長が変わった時に、市が大きく方針転換しないといけなくなってしまうのではと感じている。

会長 本日はここまでとして、次回は第 10 章から協議を進めていきたいと思う。

### 3. 閉会

事務局より次回日程等について説明